

RESAS を使った美里町・涌谷町の分析

2024年11月

遠田商工会

<目 次>

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
1. 人口推移	
①美里町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	3
②涌谷町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
2. 人口増減	
①美里町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
②涌谷町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
2. 地域経済循環図	
①美里町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
②涌谷町・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12

～はじめに～

この度遠田商工会では、RESAS を活用した「人口推移・人口増減」、「地域経済循環図」、「産業構造マップ」について、美里町・及び涌谷町の分析を行いましたので、ご活用ください。

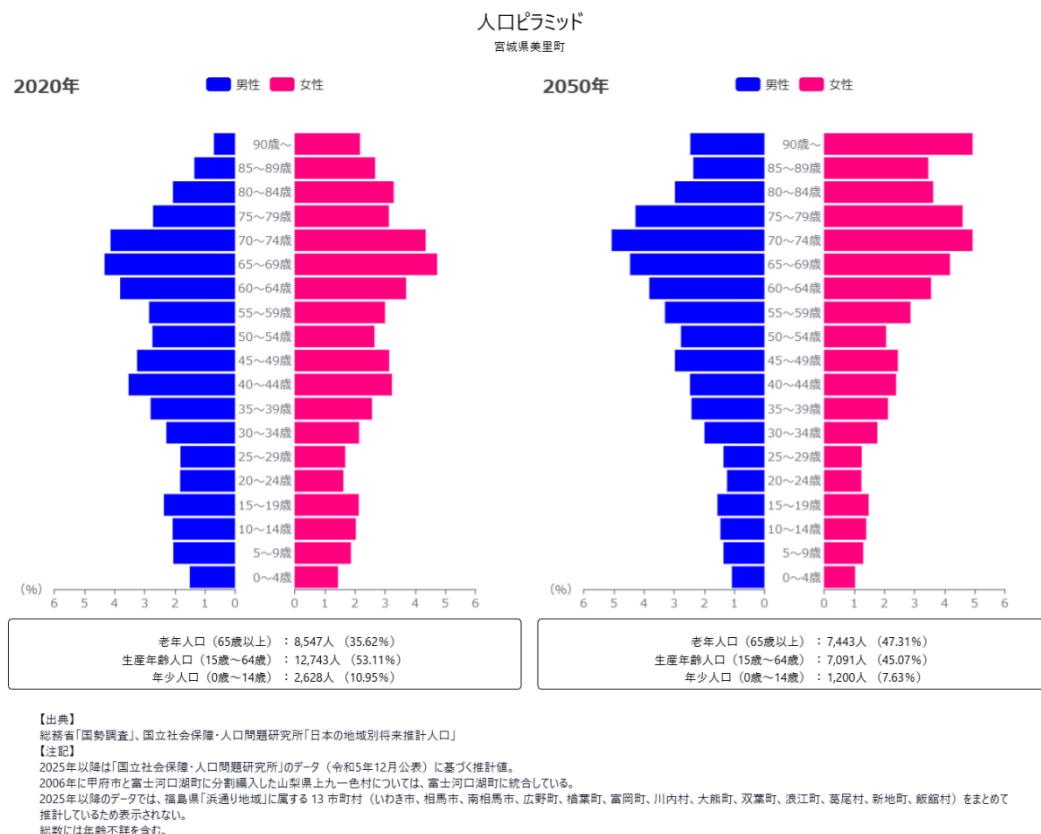
<RESAS とは>

経済産業省と内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局が無料で提供する産業構造や人口動態、人の流れなどの官民ビッグデータを集約し、可視化するシステムです。

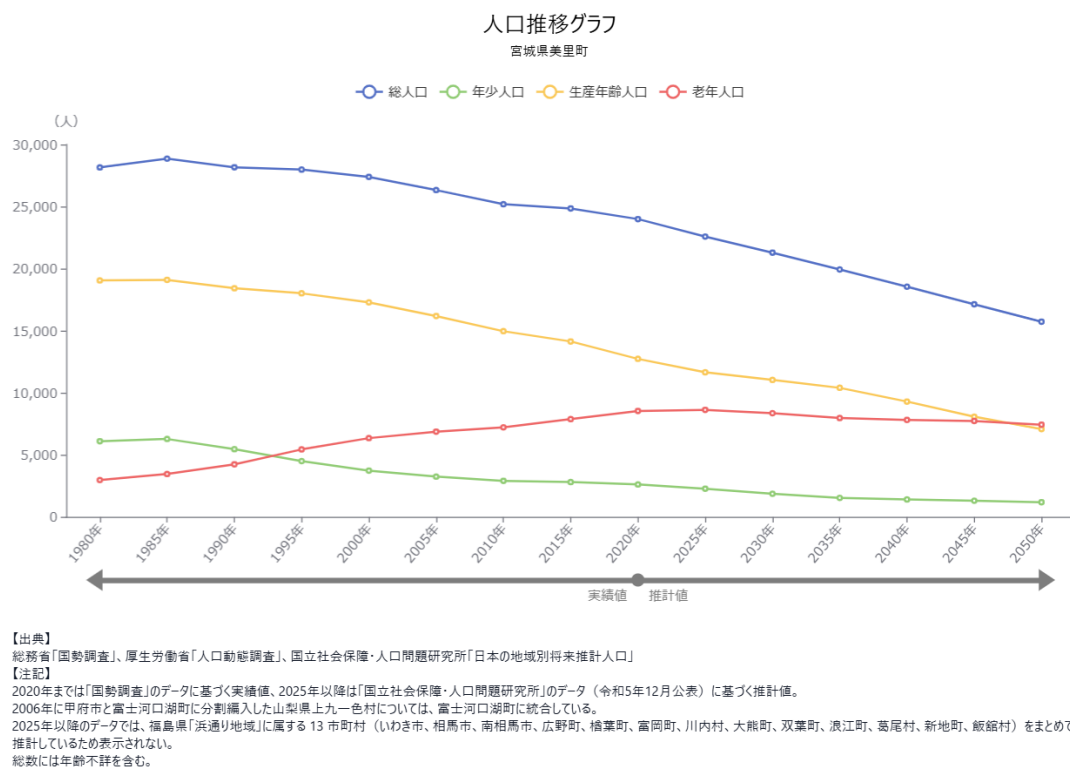
RESAS : <https://resas.go.jp/>

1. 人口構成・人口推移

①美里町

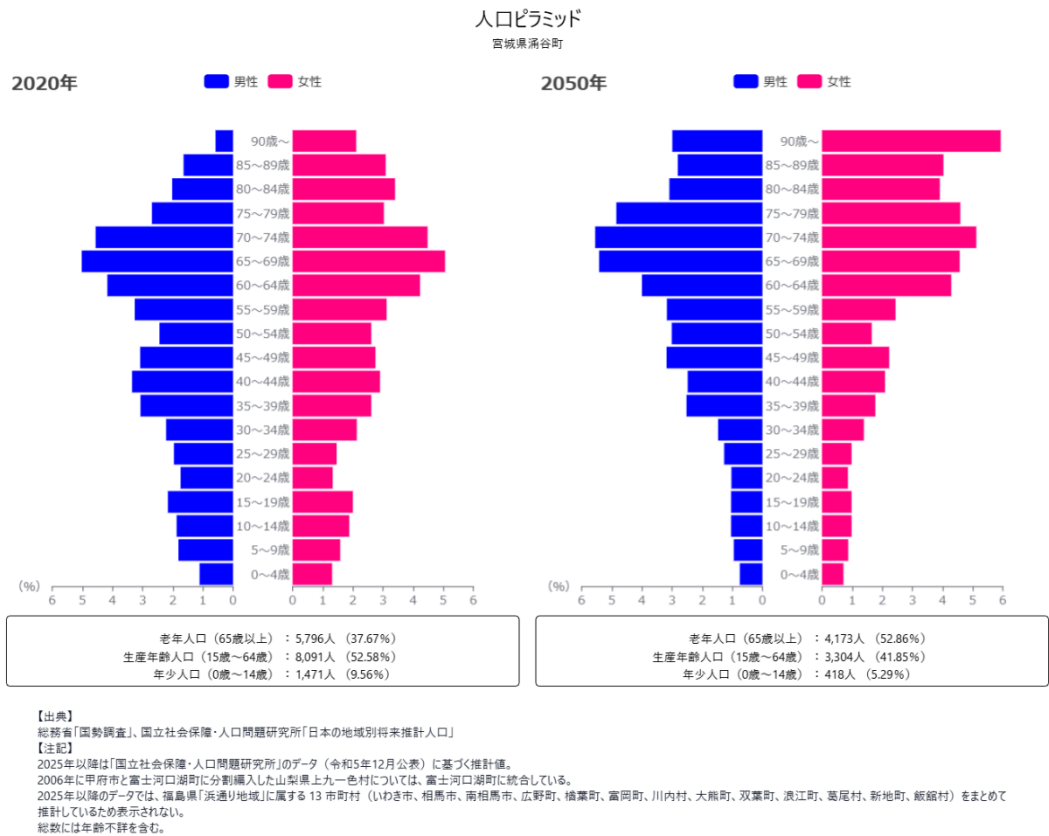


2020年と2050年を比較すると、全体的に人口は減少傾向にあり、特に年少人口が54%近く、生産年齢人口は44%近くと特に大きく減少することが見込まれる一方、老年人口は増加傾向にある。

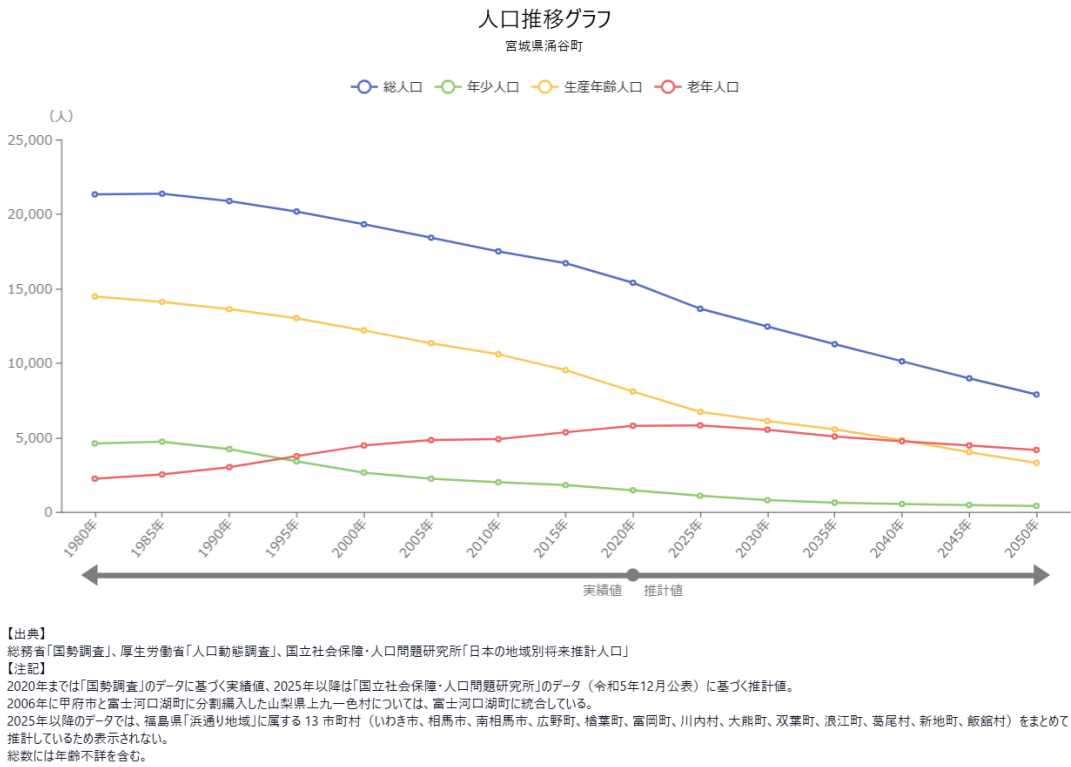


今後の推移をみると、総人口は減少傾向にあり、年が進むにつれ、人口における年少人口と生産年齢人口の比率が減少し、老年人口の比率が増加傾向となっている。

②涌谷町



2020年から2050年にかけて、年少人口においては約71%、生産年齢人口においては約59%と大幅な減少が見込まれる。老年人口も減少傾向にあり、全世代的に人口減が進んでいくような状況。



総人口は減少傾向にあり、年が進むにつれて減少速度が増しており、それに呼応するように年少人口と生産年齢人口の比率が減少し、老年人口の比率が増加傾向となっている。

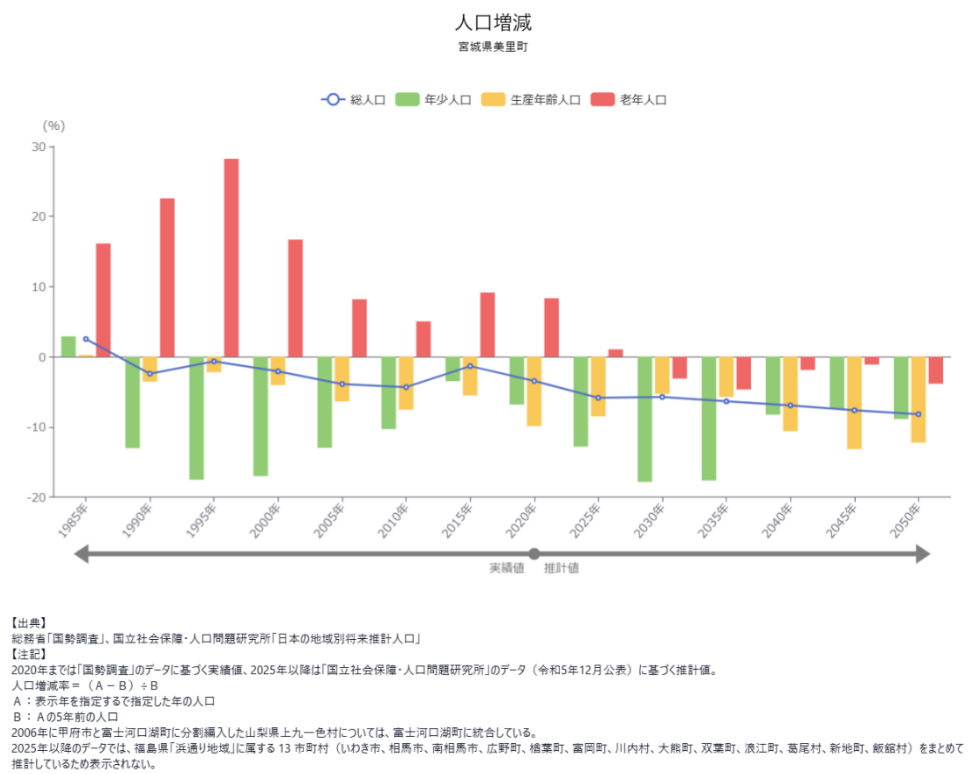
2. 人口増減

<用語解説>

○自然増減・・・死亡数と出生数の差による増減のこと。

○社会増減・・・転出数と転入数の差による増減のこと。

①美里町

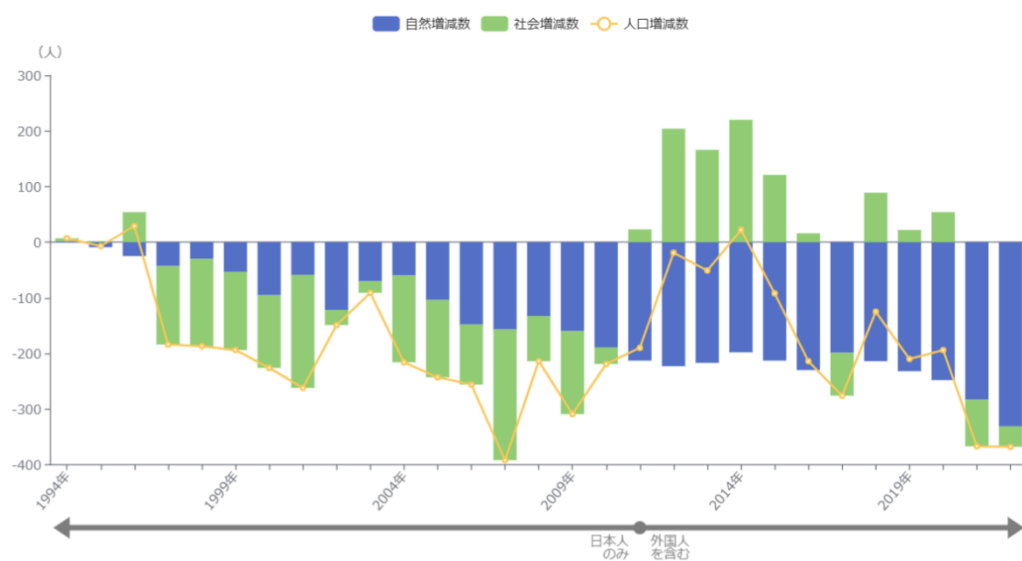


2020年頃までは老年人口の増加が続くが、それ以降は緩やかに減少に転じている。年少人口においては2030年までに急激な減少となる状況。生産年齢人口においては、今後減少の割合が増加していく見込み。



総人口は減少傾向にあり、今後も減少していく見込み。その要因としては、出生数の減少と死亡率の増加が進んでいることが考えられる。転入と転出については、わずかに転出が多いものの、あまり差はない状況。

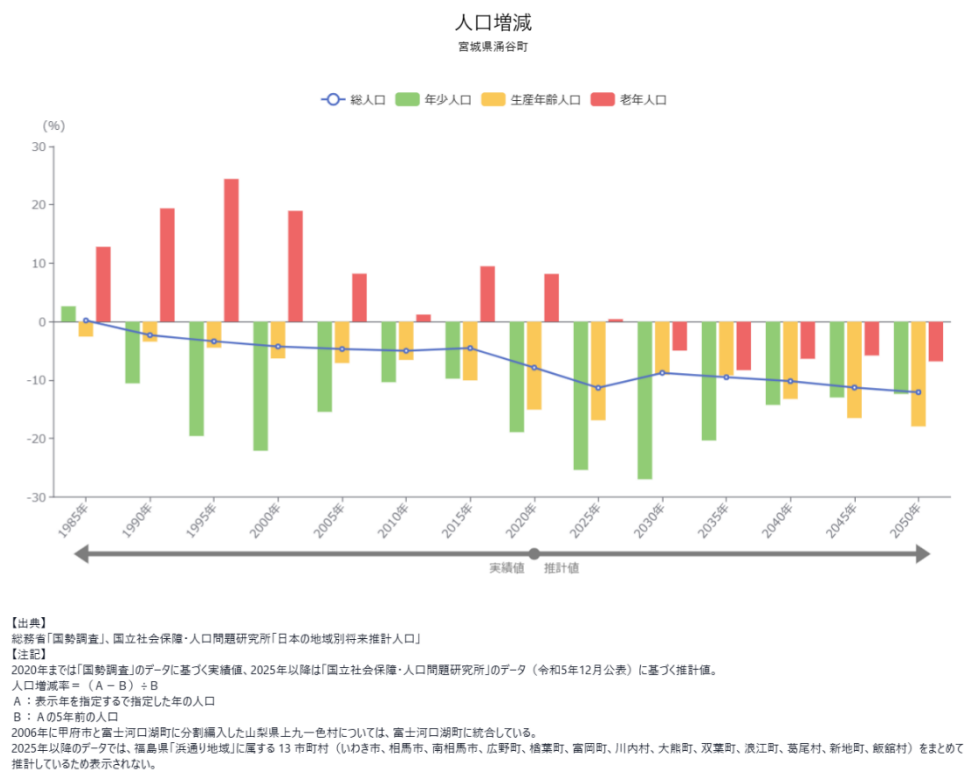
自然増減・社会増減の推移(折れ線)
宮城県美里町



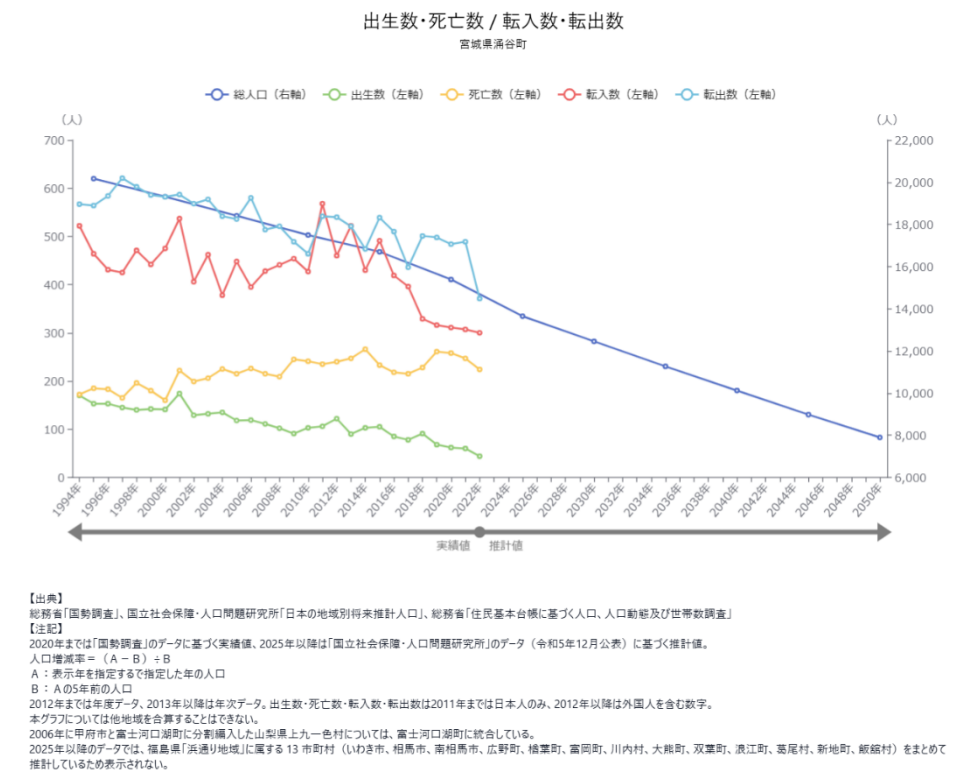
【出典】
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
【注記】
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。
2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

人口は2011年から2016年にかけて転入による増加があったが、これは東日本大震災による被災地からの移住によるものと考えられる。自然増減は年々増加している状況。

②涌谷町

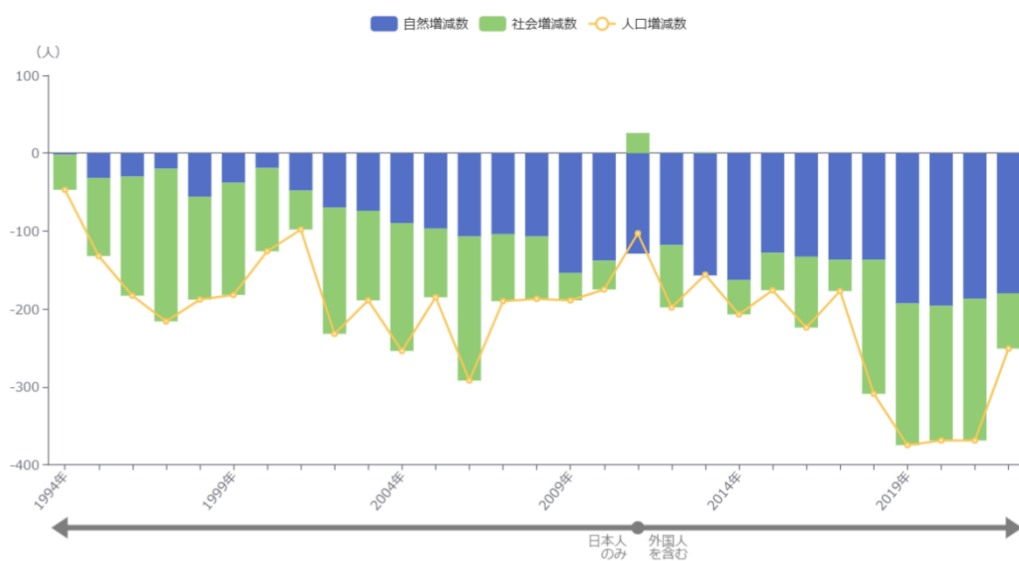


老年人口の増加は2020年頃まで続くが、それ以降は緩やかに減少していく見込み。年少人口に関しては2035年まで大きな減少が続く。生産年齢人口においては今後減少が少しずつ大きくなる見込み。



総人口は減少傾向にあり、今後そのスピードは増していく見込み。そして出生数、死亡数、転入数、転出数の全において減少している。

自然増減・社会増減の推移(折れ線)
宮城県涌谷町



【出典】
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」再編加工
【注記】
2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。2011年までは日本人のみ、2012年以降は外国人を含む数字。
2006年に甲府市と富士河口湖町に分割編入した山梨県上九一色村については、富士河口湖町に統合している。

自然増減、社会増減共に減少傾向にあり、増加に転じる様子は見られない。

3. 地域経済循環図

～「地域経済循環率」とは～

生産（付加価値額）を分配（所得）で除した値であり、地域経済の自立度を示している。（値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。）

ここでは環境省が提供している経年変化版地域経済循環分析自動作成ツールによる分析結果も掲載する。

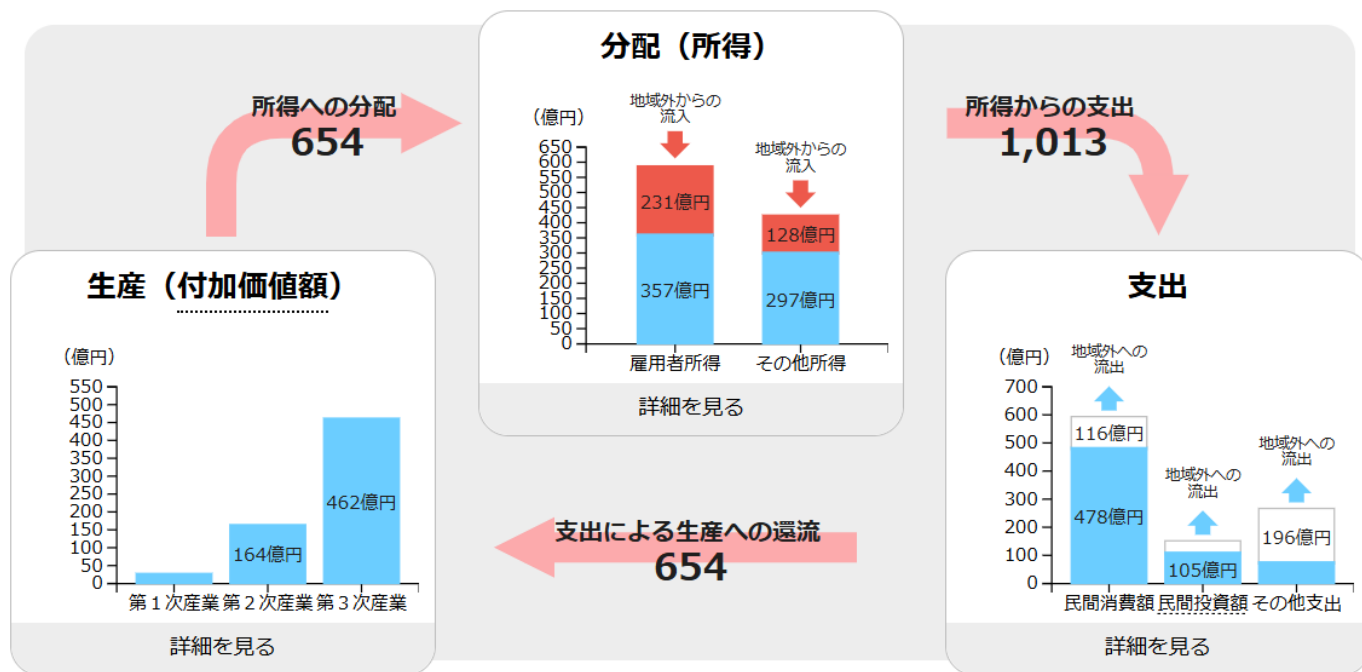
（ <https://www.env.go.jp/policy/circulation/index.html> ）

①美里町

地域経済循環率
64.6%

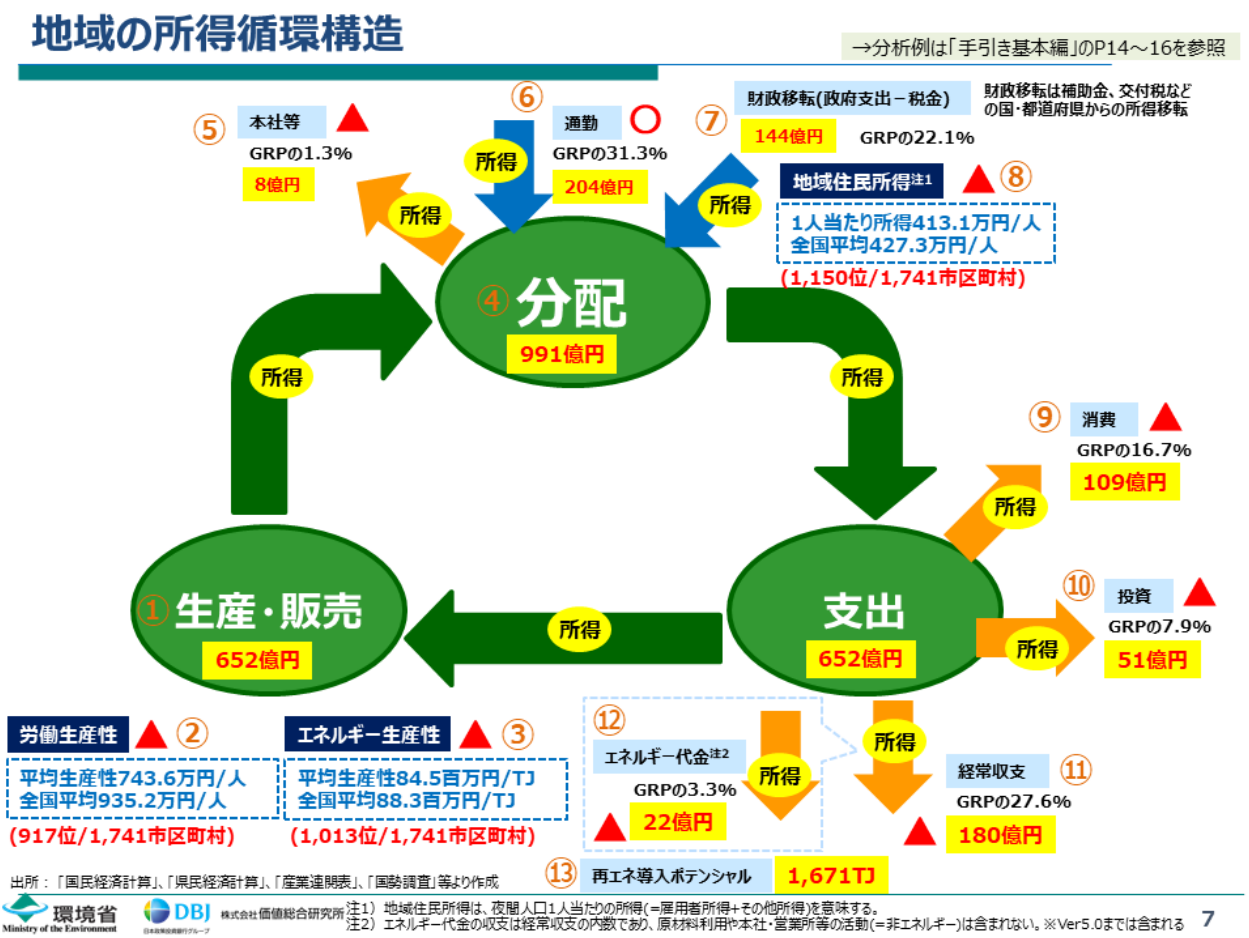
地域経済循環図 2018年

指定地域：宮城県美里町



地域経済循環率は60%ほどであり、他地域からの所得にやや依存していることがうかがえる。

経年変化版地域経済循環分析自動作成ツールによる分析結果は下記の通り。



地域の所得循環構造		→分析例は「手引き基本編」のP14～16を参照
地域の特徴		分析内容
生産・販売	①美里町では、652億円(P.17)の付加価値を稼いでいる。	■ 域内で労働生産性とエネルギー生産性が両立できているか ■ エネルギー生産性は、エネルギー消費1単位あたりの付加価値である
	②労働生産性は743.6万円/人(P.18)と全国平均よりも低く、全国では917位である。	
	③エネルギー生産性は84.5百万円/TJ(P.55)と全国平均よりも低く、全国では1,013位である。	
分配	④美里町の分配は991億円(P.34)であり、①の生産・販売652億円よりも大きい。	■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か ■ 本社等や域外からの通勤者に所得が流出していないか ■ 財政移転はどの程度か
	⑤また、本社等への資金として8億円が流出(P.35)しており、その規模はGRPの1.3%を占めている。	
	⑥さらに、通勤に伴う所得として204億円が流入(P.35)しており、その規模はGRPの31.3%を占めている。	
	⑦財政移転は144億円が流入(P.35)しており、その規模はGRPの22.1%を占めている。	
支出	⑧その結果、美里町の1人当たり所得は413.1万円/人(P.39)と全国平均よりも低く、全国で1,150位である。	■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か ■ 消費や投資が域内に流入しているか否か ■ 移出入で所得を稼いでいるか否か
	⑨美里町では買物や観光等で消費が109億円流出(P.42)しており、その規模はGRPの16.7%を占めている。	
	⑩投資は51億円流出(P.45)しており、その規模はGRPの7.9%を占めている。	
エネルギー	⑪経常収支では180億円の流出(P.14)となっており、その規模はGRPの27.6%を占めている。	■ エネルギー代金の支払いで住民の所得がどれだけ域外に流出しているか ■ 地域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか
	⑫美里町では、エネルギー代金が域外へ22億円の流出(P.48)となっており、その規模はGRPの3.3%を占めている。	
エネルギー	⑬美里町の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは1,671TJ(P.64)であり、地域で使用しているエネルギー(P.52)の約2.17倍である(P.64)。	

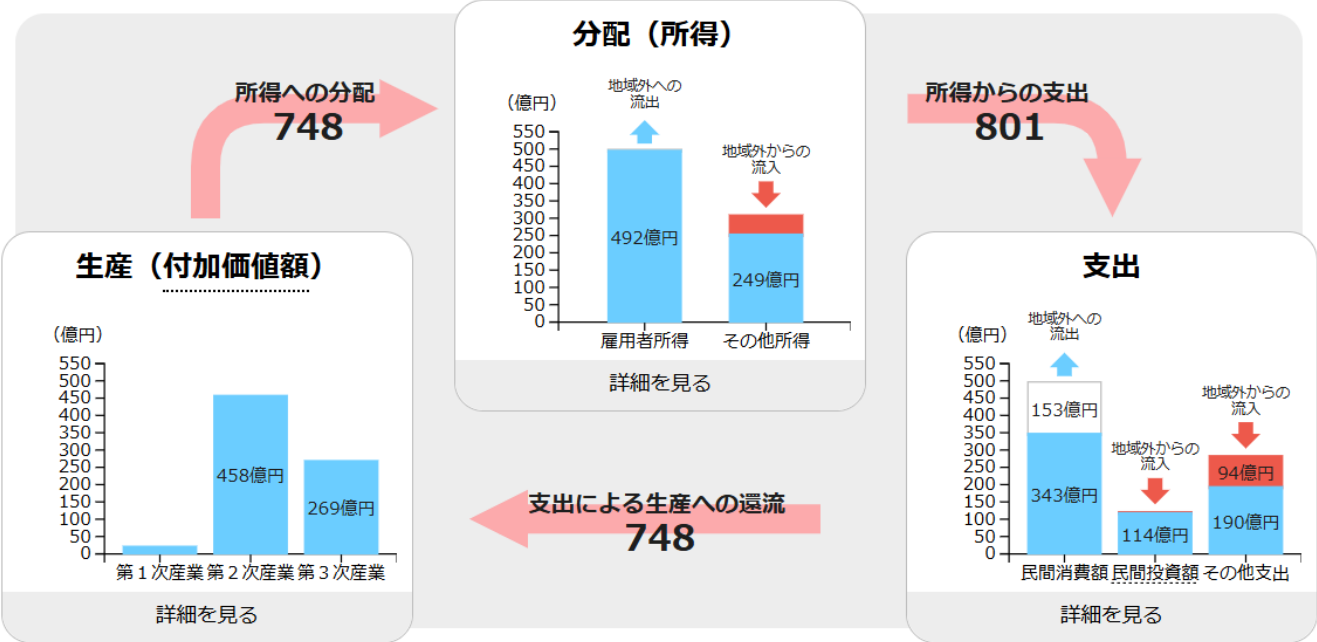
環境省 DBJ 株式会社価値総合研究所 注) ⑪の経常収支では、P.14の純移転出額から純輸出分を除いている。

②涌谷町

地域経済循環率
93.5%

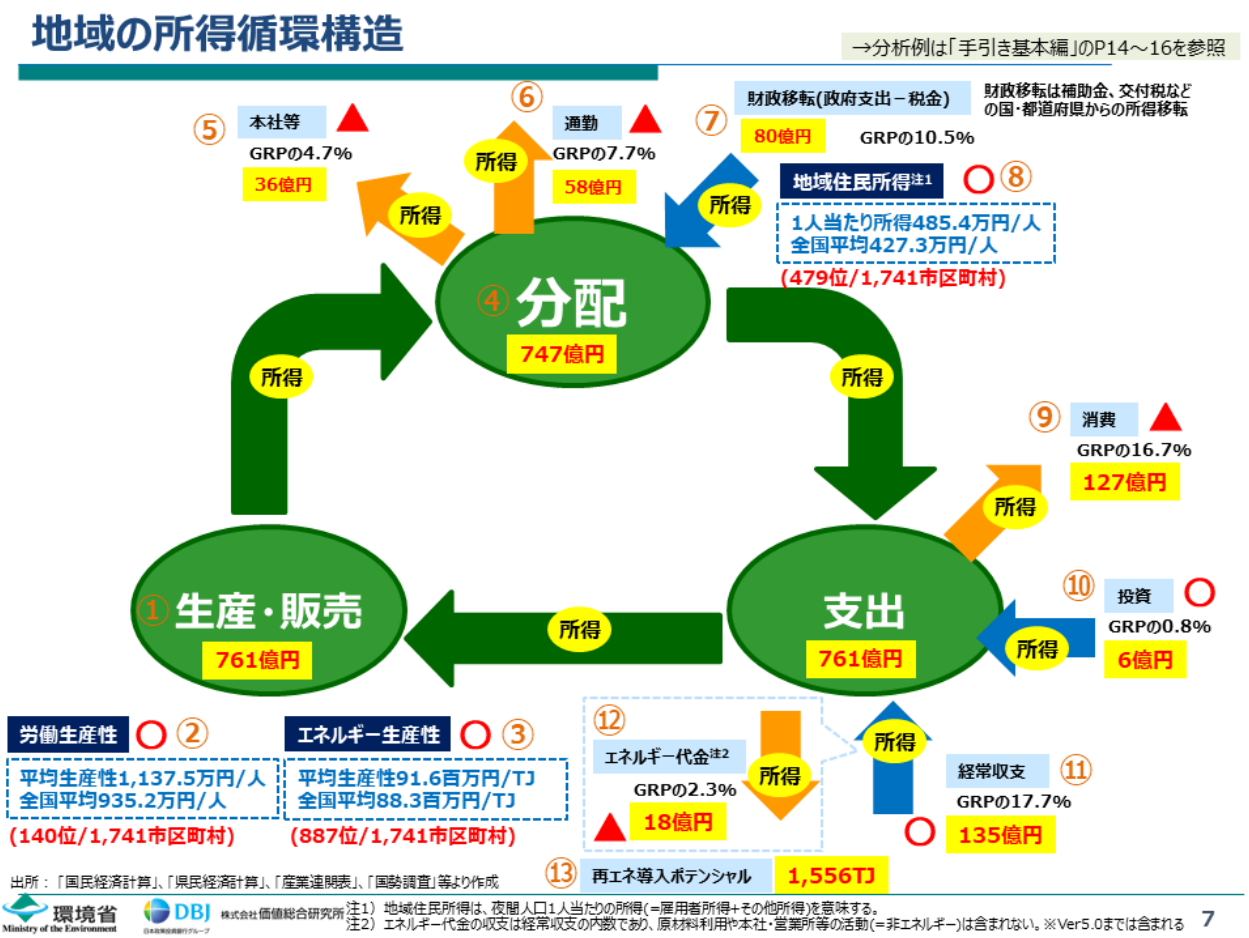
地域経済循環図
2018年

指定地域：宮城県涌谷町



地域経済循環率は90%を超えており、地域経済がほぼ自立できている状態であることが見て取れる。

経年変化版地域経済循環分析自動作成ツールによる分析結果は下記の通り。



地域の所得循環構造

→分析例は「手引き基本編」のP14～16を参照

	地域の特徴	分析内容
生産販売	① 湧谷町では、761億円(P.17)の付加価値を稼いでいる。 ② 労働生産性は1,137.5万円/人(P.18)と全国平均よりも高く、全国では140位である。 ③ エネルギー生産性は91.6百万円/TJ(P.55)と全国平均よりも高く、全国では887位である。	■ 域内で労働生産性とエネルギー生産性が両立できているか ■ エネルギー生産性は、エネルギー消費1単位あたりの付加価値である
分配	④ 湧谷町の分配は747億円(P.34)であり、①の生産・販売761億円よりも小さい。 ⑤ また、本社等への資金として36億円が流出(P.35)しており、その規模はGRPの4.7%を占めている。 ⑥ さらに、通勤に伴う所得として58億円が流出(P.35)しており、その規模はGRPの7.7%を占めている。 ⑦ 財政移転は80億円が流入(P.35)しており、その規模はGRPの10.5%を占めている。 ⑧ その結果、湧谷町の1人当たり所得は485.4万円/人(P.39)と全国平均よりも高く、全国で479位である。	■ 生産面で稼いだ付加価値が賃金・人件費として分配され、地域住民の所得(夜間人口1人当たり所得)に繋がっているか否か ■ 本社等や域外からの通勤者に所得が流出していないか ■ 財政移転はどの程度か
支出	⑨ 湧谷町では買物や観光等で消費が127億円流出(P.42)しており、その規模はGRPの16.7%を占めている。 ⑩ 投資は6億円流入(P.45)しており、その規模はGRPの0.8%を占めている。 ⑪ 経常収支では135億円の流入(P.14)となっており、その規模はGRPの17.7%を占めている。	■ 地域内で稼いだ所得が地域内の消費や投資に回っているか否か ■ 消費や投資が域内に流入しているか否か ■ 移出入で所得を稼いでいるか否か
エネルギー	⑫ 湧谷町では、エネルギー代金が域外へ18億円の流出(P.48)となっており、その規模はGRPの2.3%を占めている。 ⑬ 湧谷町の再生可能エネルギーの導入ポテンシャルは1,556TJ(P.64)であり、地域で使用しているエネルギー(P.52)の約1.87倍である(P.64)。	■ エネルギー代金の支払いで住民の所得がどれだけ域外に流出しているか ■ 地域内に再生可能エネルギーの導入ポテンシャルがどれくらい存在するか



 株式会社価値総合研究所 注) ④の経常収支では、P.14の純移転出額から純輸出分を除いている。

8